

## かながわ 障がい者計画の令和3年度最終評価について

### 1 かながわ 障がい者計画の点検・評価について

かながわ 障がい者計画における8つの施策分野を基本的な単位とし、取組内容に紐づいた約500個の構成事業と71個の成果目標の達成状況を中心に、計画期間（R1～R5）中の各年度に点検・評価を行っている。

### 2 令和3年度の成果目標達成状況及び最終評価

8つの施策分野		もくひょうすう 目標数	たっせいすう 達成数	さいしゅうひょうか 最終評価
1(1)	すべての人の権利を守るしくみづくり	2	1	②
1(2)	ともに生きる社会を支える人づくり	8	3	③
2(1)	意思決定支援の推進と地域生活移行の支援	10	2	④
2(2)	障がい者の地域生活を支える福祉・医療サービスの充実	20	8	③
3(1)	社会参加への環境づくり	7	2	②
3(2)	雇用・就業、経済的自立の支援	9	1	③
4(1)	憲章の普及啓発及び心のバリアフリーの推進	6	2	③
4(2)	教育や文化芸術・スポーツにおける取組み	7	0	④

※ 令和3年度に実績が把握できない成果目標も含む

ひょうか  
(評価のめやす)

	ひょうかくぶん 評価区分	ひょうか 評価のめやす
①	じゅんちょう すす 順調に進んでいる	せいかもくひょう もくひょう たっせい すべての成果目標について目標を達成したもの
②	おおむ じゅんちょう すす 概ね順調に進んでいる	せいかもくひょう いじょう もくひょう たっせい 成果目標の2/3以上について目標を達成したもの
③	おく やや遅れている	せいかもくひょう いじょう みまん もくひょう 成果目標の1/2以上2/3未満について目標を 達成したもの
④	おく 遅れている	もくひょう たっせい せいかもくひょう みまん 目標を達成した成果目標が1/2未満のもの

### 3 前回審議会の意見を踏まえた修正等

1(1) すべての人の権利を守るしくみづくり 取組実績<その他の取組による成果>

- 神奈川県障害者権利擁護センターにおいて、障がい者虐待に関する専門性を強化するため、法的な専門的助言を得る体制及び休日夜間の通報受理体制を継続することで、様々な相談に適切に対応した。【相談・通報件数：62件、法的な専門的助言：1回】

1(1) すべての人の権利を守るしくみづくり 一次評価<今後の課題と対応>

- 障害者虐待防止法の施行から6年以上が経過しているが、使用者による障害者虐待は労働局の調査で発見されるものも多く、障害者防止法の通報に結びついていない潜在的な虐待被害が未だ多数あると思われることから、使用者による障害者虐待の通報義務や通報先について再度の周知が必要である。また、虐待の防止及び対応力向上のため、弁護士を講師とする研修や相談を拡充するなど、法的な専門性を強化する体制の整備を進める。

1(1) すべての人の権利を守るしくみづくり 一次評価<今後の課題と対応>

- 県立の直営施設である中井やまゆり園においては、「事実であれば不適切な支援と思われる情報」として県が把握した事案について、令和4年3月に「県立中井やまゆり園における利用者支援外部調査委員会」を設置し、調査を行った。(令和4年9月に、虐待が疑われる25事案を含む調査結果を公表。) 当事者目線の障がい福祉を率先して実践

すべき<sup>けんりつしせつ</sup>県立施設<sup>お</sup>で起きた<sup>できごと</sup>出来事<sup>けん</sup>について、<sup>けん</sup>県として<sup>おも</sup>重く<sup>う</sup>受け止め、<sup>にど</sup>二度と<sup>おな</sup>同じことを<sup>く</sup>繰り返す

かえ<sup>さいはつぼうし</sup>返さないよう、<sup>りようしゃ</sup>再発防止<sup>く</sup>や利用者<sup>かいぜん</sup>の暮らし<sup>すす</sup>の改善を進める。

1(1) <sup>ひと</sup>すべての人の<sup>けんり</sup>権利を守る<sup>まも</sup>しくみづくり

さいしゅうひょうか  
最終評価

○ <sup>しちょうそん</sup>市町村<sup>けん</sup>や<sup>よ</sup>県に<sup>しょう</sup>寄せられた<sup>しやぎやくたいつうほうとう</sup>障がい者虐待通報<sup>けんすう</sup>等の<sup>けん</sup>件数は、<sup>れいわ</sup>令和<sup>ねんど</sup>2年度<sup>けん</sup>に<sup>けん</sup>440件<sup>けん</sup>(<sup>れいわげん</sup>令和元

<sup>ねんど</sup>年度<sup>けん</sup>:<sup>へいせい</sup>425件<sup>ねんど</sup>、<sup>けん</sup>平成30年度<sup>へいせい</sup>:<sup>ねんど</sup>369件<sup>けん</sup>、<sup>けん</sup>平成29年度<sup>けん</sup>342件)と、<sup>まいねんどぞうか</sup>毎年度<sup>けん</sup>増加<sup>けん</sup>している。これは、

<sup>けんしゅうしゅうりようしゃ</sup>研修終了者<sup>ぞうか</sup>の増加<sup>ほんらいつうほう</sup>によって、<sup>じあん</sup>本来<sup>ただ</sup>通報<sup>つうほう</sup>すべき<sup>けん</sup>事案<sup>けん</sup>が<sup>けん</sup>正しく<sup>けん</sup>通報<sup>けん</sup>されるようになった

<sup>けんすう</sup>件数<sup>ふく</sup>も<sup>かんが</sup>含まれると<sup>かんが</sup>考えられ、<sup>ほんけいかく</sup>本計画<sup>せいか</sup>の<sup>とら</sup>成果<sup>けん</sup>として<sup>けん</sup>捉える<sup>けん</sup>ためには、<sup>ふくごうてき</sup>より<sup>ぶんせき</sup>複合的<sup>けん</sup>な<sup>けん</sup>分析<sup>けん</sup>が

<sup>ひつよう</sup>必要<sup>けん</sup>である。

1(2) <sup>い</sup>ともに<sup>しやかい</sup>生きる<sup>ささ</sup>社会<sup>ひと</sup>を支える<sup>けん</sup>人づくり

さいしゅうひょうか  
最終評価

○ <sup>ほんぶんやぜんたい</sup>本分野<sup>とお</sup>全体<sup>かくけんしゅうしゅうりようしやすういがい</sup>を通して、<sup>せいか</sup>各<sup>けん</sup>研修<sup>けん</sup>修了<sup>けん</sup>者<sup>けん</sup>数<sup>けん</sup>以外<sup>けん</sup>に、<sup>けん</sup>成果<sup>けん</sup>として<sup>けん</sup>の<sup>けん</sup>従事者<sup>けん</sup>総数<sup>けん</sup>を<sup>けん</sup>把握<sup>けん</sup>す

<sup>ひつよう</sup>必要がある。例えば、<sup>たど</sup>相談<sup>そうだん</sup>支援<sup>しえん</sup>専門員<sup>せんもんいん</sup>の<sup>しゅうぎょうじょうきょうちようさ</sup>就業<sup>けん</sup>状況<sup>けん</sup>調査<sup>けん</sup>を開始<sup>けん</sup>しているため、<sup>けん</sup>次回<sup>けん</sup>の

<sup>ひょうか</sup>評価<sup>けん</sup>に<sup>けん</sup>その<sup>けん</sup>調査<sup>けん</sup>結果<sup>けん</sup>を<sup>けん</sup>反映<sup>けん</sup>させる。

2(1) <sup>い</sup>意思<sup>し</sup>決定<sup>けん</sup>支援<sup>けん</sup>の<sup>けん</sup>推進<sup>けん</sup>と<sup>けん</sup>地域<sup>けん</sup>生活<sup>けん</sup>移行<sup>けん</sup>の<sup>けん</sup>支援

さいしゅうひょうか  
最終評価

○ <sup>きやうどうどうしやうがいしえんしやようせいけんしゅう</sup>強度<sup>けん</sup>行動<sup>けん</sup>障害<sup>けん</sup>支援<sup>けん</sup>者<sup>けん</sup>養成<sup>けん</sup>研修<sup>けん</sup>を受<sup>けん</sup>講<sup>けん</sup>した<sup>けん</sup>グループ<sup>けん</sup>ホーム<sup>けん</sup>の<sup>けん</sup>支援<sup>けん</sup>者は、<sup>けん</sup>直<sup>けん</sup>近<sup>けん</sup>3<sup>けん</sup>年間<sup>けん</sup>

<sup>へいきんち</sup>の<sup>けん</sup>平均<sup>けん</sup>値<sup>けん</sup>として、<sup>けん</sup>受<sup>けん</sup>講<sup>けん</sup>者<sup>けん</sup>全体<sup>けん</sup>の<sup>けん</sup>約<sup>けん</sup>20%<sup>けん</sup>を<sup>けん</sup>占<sup>けん</sup>めて<sup>けん</sup>いて、<sup>けん</sup>研<sup>けん</sup>修<sup>けん</sup>修<sup>けん</sup>了<sup>けん</sup>者<sup>けん</sup>による<sup>けん</sup>支<sup>けん</sup>援<sup>けん</sup>実<sup>けん</sup>施<sup>けん</sup>の<sup>けん</sup>目<sup>けん</sup>安<sup>けん</sup>

<sup>けん</sup>となる<sup>けん</sup>重<sup>けん</sup>度<sup>けん</sup>障<sup>けん</sup>害<sup>けん</sup>者<sup>けん</sup>支<sup>けん</sup>援<sup>けん</sup>加<sup>けん</sup>算<sup>けん</sup>を<sup>けん</sup>算<sup>けん</sup>定<sup>けん</sup>する<sup>けん</sup>グ<sup>けん</sup>ル<sup>けん</sup>ー<sup>けん</sup>ホ<sup>けん</sup>ー<sup>けん</sup>ム<sup>けん</sup>数<sup>けん</sup>も<sup>けん</sup>増<sup>けん</sup>加<sup>けん</sup>して<sup>けん</sup>お<sup>けん</sup>り、<sup>けん</sup>令<sup>けん</sup>和<sup>けん</sup>3<sup>けん</sup>年<sup>けん</sup>度<sup>けん</sup>で

は、グループホーム<sup>ぜんたい やく</sup>全体の約18%となっている。行動障害<sup>こうどうしょうがい</sup>のある人の生活支援<sup>ひと せいかつしえん</sup>の担い手<sup>にな て</sup>増加<sup>ぞうか</sup>につながっている。

2(2) 障がい者の地域生活を支える福祉・医療サービスの充実<sup>しょう しゃ ちいきせいかつ さき ふくし いりょう じゅうじつ</sup> 最終評価<sup>さいしゅうひょうか</sup>

○ 福祉サービスの充実<sup>ふくし じゅうじつ</sup>については、関連する成果目標<sup>かんれん せいこもくひょう</sup>である「児童発達支援事業等<sup>じどうはつたつしえんじぎょうとう</sup>を行う事業所数<sup>おこな じぎょうしょすう</sup>」や、「サービス管理責任者研修<sup>かんりせきにんしゃけんしゅう</sup>の修了者<sup>しゅうりょうしゃ</sup>」及び「児童発達支援管理責任者<sup>およ じどうはつたつしえんかんりせきにんしゃ</sup>研修<sup>けんしゅう</sup>の修了者数<sup>しゅうりょうしゃすう</sup>」は順調<sup>じゅんちょう</sup>に増加<sup>ぞうか</sup>しているが、「県内のホームヘルプサービスの利用<sup>けんない りよう</sup>人数<sup>にんずう</sup>」「医療型短期入所のサービス見込量<sup>いりょうがたんきにゅうしょ みこりょう</sup>」などの障がい者の地域生活を支える在宅サ<sup>しょう しゃ ちいきせいかつ さき ざいたく</sup>ービス等<sup>ら</sup>の充実<sup>じゅうじつ</sup>に係る成果目標<sup>かか せいこもくひょう</sup>において、令和3年度目標<sup>れいわ ねんどもくひょう たっせい</sup>を達成<sup>さ</sup>していないなど、更<sup>さら</sup>なる努力<sup>どりよく</sup>が必要<sup>ひつよう</sup>である。これらの施策<sup>せさく</sup>の成果<sup>せいこ</sup>として、地域生活移行者数<sup>ちいきせいかついこうしゃすう</sup>の増加<sup>ぞうか</sup>を<sup>めざ</sup>目指<sup>めざ</sup>しているが、目標<sup>もくひょう</sup>には届<sup>とど</sup>いていない。

3(1) 社会参加<sup>しゃかいさんか</sup>への環境<sup>かんきょう</sup>づくり

3(2) 雇用・就業<sup>こよう しゅうぎょう</sup>、経済的自立<sup>けいざいてきじりつ</sup>の支援<sup>しえん</sup>

4(1) 憲章<sup>けんしょう</sup>の普及啓発<sup>ふきゅうけいはつ</sup>及び心<sup>こころ</sup>のバリアフリー<sup>すいしん</sup>の推進<sup>すいしん</sup>

4(2) 教育<sup>きょういく</sup>や文化芸術<sup>ぶんかげいじゆつ</sup>・スポーツ<sup>とりく</sup>における取組み<sup>とりくみ</sup>

とく  
特になし